

街 ing の忘年会 in パナソニックリゾート ふぐづくし・かにづくし

実施日 2021年12月9日(木)

参加者 川本 阪田 阪田 笹嶋 杉田 中村 南野 牧 吉田 吉田 計10名

パナソニックリゾート大阪はパナソニックが所有する宿泊研修施設です。利用者はパナソニックグループの社員およびOBが中心ですが、一般の方でも利用できます。大阪モノレール「宇野辺駅」から徒歩10分の高台にあります。ここのレストランでは、冬場限定で「かに料理」と「ふぐ料理」を味わうことができます。日本海まで行かなくても大満足できるのが売り物。コロナが下火にはなりましたが、引き続きソーシャルディスタンスに配慮し、ふぐ・カニいっぱいの料理を楽しみました。

街 ing でパナソニックリゾートを最初に訪問したのは、2005年4月3日、16年前です。当時の名称はパナヒルズ。お花見と食事を楽しみました。

2回目は、昨年12月2日。今回で3回目となります。前回同様、コロナを考慮し一人鍋での料理でした。1年後にはマスクなしの生活が戻っているのでしょうか。



1テーブル4人までのソーシャルディスタンスを確保しています。会食は2時間以内に終了するよう要請がありました。会話を少なくし、ひたすらいただきました。

錦秋の洛西ものがたり

浄住寺から松尾大社まで

実施日 2021年11月26日(金)

参加者 街ing11名 河村 阪田 笹嶋 杉田 清野 南野 長谷川 牧 松尾 松岡 吉田
他の団体15名 合計 26名

丹後地方を水源とする保津川は、嵐山あたりで京都盆地に入り桂川と名前を変えます。この風光明媚な地には多くの平安貴族が別荘を営みました。また、この地には松尾大社を筆頭に京洛有数の古社寺が自然に溶け込むようにたたずんでいます。いにしえの大宮人(宮中に仕える人)にとって桂川以西は、都の喧騒を離れて俗塵を落とす格好の場所でした。今回の散策では、嵐山から少し離れた〈紅葉の穴場〉で洛西の秋をたっぷり堪能しました。企画・案内をしてくださいました牧さんに感謝いたします。



山口家長屋門

長屋門とは門の扉口の両側に部屋が連なる形式の門です。あたかも長屋の中ほどに門があるように見えるところからこの名が付けられました。江戸後期に建てられた庄屋屋敷の建物です。

浄住寺

810年開創。紅葉の穴場。人出が少なく、ゆったりと紅葉の魅力に浸ることができました。



華厳寺

鈴虫寺とも呼ばれ、寺内には一年中鈴虫が鳴いています。住職の法話を聞く予定でしたが、あいにく満員。記念写真だけの参拝となりました。



松尾大社まつのおたいしやが正式名
京都最古の神社です。平安遷
都は「鳴くよ鶯」の 794 年。それ
より 93 年前の 701 年には社殿
が造営されていました。
酒造の神としての信仰が厚い。
勘亭流の看板との調和がナイスです。

松風苑

松尾大社内にある庭。昭和の庭園学の第
一人者重森鈴玲の作。明治以降における
現代最高の芸術的作品として知られていま
す。



とりよね 昼食会場

かつて松尾一帯で、養鶏場を営んでいた歴
史を持つ老舗の料亭。鶏肉のうまみが出
汁に溶け込むあつあつの小鍋を自家製の
ポン酢でいただきました。

「柿くへば」子規の聞いた奈良の鐘音、ついたのは誰？

とことん調査隊



修学旅行生たちが戻ってきた世界遺産の法隆寺(奈良県斑鳩町)。五重塔や金堂を巡った後、バスガイドが必ず案内するのが、境内の鏡池の傍らに立つ正岡子規の句碑だ。「法隆寺の茶店に憩いて」の前詞とともに、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」という有名な句が刻まれている。

句碑は1916年(大正5年)、かつて茶屋のあった跡地に子規門下の俳人、松瀬青々らが建立した。刻まれた文字は子規自筆の短冊を拡大したものという。子規は1895年(明治28年)10月下旬、法隆寺を訪れ、この句を詠んだということになっている。

法隆寺で「時の鐘」を打つのは、境内の西北にある西円堂の鐘楼だ。午前8時から午後4時まで2時間おきに1日5回、時刻の数だけ寺の職員が交代で鐘をつく。現在の鐘は1993年に新しくしたものだが、子規が聞いたのは西円堂の鐘だったのか。

ところが専門家の間では、この句はフィクションという説がある。子規が法隆寺を参拝した当日は午後から時雨が降ったと記録に残る。長年、法隆寺のガイドを務める「門前宿和空法隆寺」企画部長の中江太志さんは「子規が法隆寺を訪れたことすら虚構という説もあります」。

子規は 1895 年 4 月、日清戦争の従軍記者として中国大陆に渡ったが、無理がたたリ 5 月に帰国の船中で喀血(かけつ)。神戸や須磨で療養した後、松山に帰郷し、友人の夏目漱石の下宿先に 2 カ月近く居候する。柴田宵曲著「評伝正岡子規」によると、10 月 19 日に帰京すべく松山をたつたが、その途上、腰骨が痛み出して歩行が困難となり、癒えるのを待って大阪、奈良に遊んだ。

子規が奈良で 3 日ほど滞在したのは東大寺近くの老舗旅館「對山楼角定」(現在は天平倶楽部)。そこから法隆寺まで約 15 ㌔の距離があり、今なら車で 30 分ほどだが、当時は汽車なら 1 時間超はかかっただろう。奈良女子大学名誉教授で俳人の故和田悟朗氏は、法隆寺を詠んだ子規の句は囑目吟(目に触れたものを即興的に詠むこと)の実感が希薄と指摘し、「腰を痛めていた子規が本当に法隆寺まで行ったかどうか、疑問だ」(「子規と法隆寺」)と提起した。

では、子規はどこで鐘音を聞いたのか。子規は随筆に奈良の宿で御所柿を食べながら東大寺の鐘を聞いたと書き残している。夕食後、宿の下働きの少女が大きなどんぶりに山のように柿を持ってきた。「柿も旨(うま)い。場所もいい。余はうつとりしているとボーンという釣鐘の音が一つ聞こえた」(「くだもの—御所柿を食ひし事」)。この時、「柿くへば鐘が鳴るなり」という着想を得て、その体験を「法隆寺」に置き換えたのか。

奈良の歴史に詳しい NPO 法人奈良まほろばソムリエの会の石田一雄さんが「子規が聞いたのは午後 8 時の初夜の鐘で、今も毎日 1 回、同時刻に鳴らされる。鐘をつくのは明治から代々、大鐘家の屋号を持つ川辺家の人々です」と教えてくれた。大鐘は通称「奈良太郎」。重さ 26.3 トンの国宝だ。鐘楼の近くに住む川辺家では毎日、鐘をつく奉仕の代わりに、鐘楼の中で土産物商売を許されてきた。

午後 8 時前、鐘楼の前で待っていると大鐘家 6 代目、川辺嘉一さん(68)がやってきた。鐘をつくのは 3 分間に計 18 回。「この鐘は奈良時代の寺創建当時から今も現役。東大寺をつくった聖武天皇が聞いていた同じ鐘音が今も聞けるんです」。子規が聞いたのは川辺さんの曾祖父の祖父にあたる初代のついた鐘音だ。

法隆寺に古くから残る「法隆寺日記」には子規来訪の記録はないが、そうかといって子規が法隆寺を参拝しなかったと判断はできない。法隆寺か東大寺か。川辺さんは「そこら辺はアバウトにしておくのがロマンではないですか」と話している。

(岡本憲明)



鈴木敏正さんのパステル画の紹介

杉田 宗三

恒例になった新樹会の絵画展が、今年も12月8日（水）～14日（火）にクリエイトセンター1Fギャラリーで開催されました。

この絵画展は、山手台在住の朝日嗣雄さんが主催するもので、ここに街 ing メンバーの鈴木敏正さんと他女性一人（米田かよ子さん）が毎回賛助出展しています。

今年の鈴木敏正さんの出展作品は、パステル画3点でした。重厚なタッチで素晴らしい作品です。ここにデジカメで撮った写真を添付して紹介します。ただ光線を避けて斜めに撮ったものや撮影技量の至らないところはご容赦下さい。



廃線敷と山溪

鈴木 敏正 パステル

雪の金剛山道

鈴木 敏正 パステル



茅葺郷

鈴木 敏正 パステル



「昭和レトロ」で思い出すのは？

杉田 宗三

先日読んだ向田邦子さんについての「家族を描き、昭和を映す」という記事の中で、「他人には絶対見せないなにかは、たしかにありますね。本人も『見ぬことを清し』とよく書かれています。絶対に土足で踏み入らせない領域を持つのは大事なことです。昭和の時代を一生懸命生きた女性ならではの矜持だったのでしょう。」や「前に勤めていた企業は、男性の定年が六十才のところ、女性は四十五才だったんです。一応は先鋭的な外資系の企業なのに」と語られています。このように最近「昭和レトロ」が語られることが多くなったと思いませんか？

当会のメンバーは全員がこの世代ですが「昭和レトロ」とか「昭和らしさ」とか急に問われた時に何を思い出しますか、直ぐに答えられるものがどれくらいあるでしょうか？

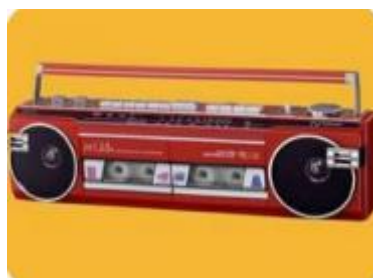
以下にネットからいくつか写真をピックアップしてみました。思い出す手掛かりになりますか？



食卓風景



家電・三種の神器



ラジカセ



フラフープで遊ぶ

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日 時： 2022 年 2 月 3 日(木) 15:00～17:00 <1 月の例会はありません>

場 所： 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

住所：茨木市上泉町6-29 TEL:072-624-5552

- 内 容： 1. 4 月上旬のお花見
2. 5 月以降のまち歩き
3. 情報交換

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年 3 回程度の街歩きを行なっています。参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000 円 会費 年間 2,000 円(一か月 170 円)



《 編集後記 》

- 2021 年が終わります。コロナに明け暮れた 1 年でしたが、街 ing では 4 月の武田尾、9 月の吹田中西家、11 月の松尾大社、12 月のパナソニックリゾートと 4 回の行事を行うことができました。すべて事故なく終了できてなによりでした。
- コロナ対策を講じながらの実施でした。手洗い、うがいなど自宅でのこまめな対策を含めた日ごろからの生活習慣も効果があったと思っています。
- 街 ing 次回の行事は 4 月上旬の仁和寺周辺でのお花見です。あと 3 か月。2 月 3 日(木)の例会で詳細を決める予定です。コロナの完全終息は難しいでしょうが、引き続き対策を講じながら、実施にこぎつけたいです。
- 一年間のご愛読ありがとうございました。よいお年をお迎えください。来年もどうぞよろしく。

《 編集・発行 》

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目 10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街 ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2021 年 12 月現在での訪問者は 9,490 <前月比 20 の増加> となっています。

